

対談 ～障がい者就労支援について～

愛知電線株式会社 代表取締役 前田将行

× 一般社団法人あいち福祉振興会 代表理事 中島将登

前田：本日は感謝状をいただきましてありがとうございます。

中島：こちらこそ日頃より、私どもあいち福祉振興会の活動に多大なるご理解とご協力いただき感謝しております。

前田：本日はよろしく申し上げます。

中島：よろしく申し上げます。

前田：さて早速ですが、当社で貴法人の就労支援をお手伝いさせていただき 2 年ほどが経過しました。改めて貴法人の事業内容と取り組んでおられることを詳しくお聞かせください。

中島：はい、ありがとうございます。当法人は、障がい者福祉サービスとして、サービス利用のための相談支援から就労に関わるサービスを展開しており、名古屋市内と知多方面、西尾張方面で活動しています。現在では常時 200 名ぐらいの契約者・利用者がお見えになり、また愛知県と半田市からの委託事業として生活困窮者自立支援法に基づく就労準備支援事業も受注させて頂いております。

前田：契約者・利用者の方が 200 名もいらっしゃるということですが、どのような方が多いのですか。

中島：ひきこもりや障がいの疑い、8050 問題など様々な方がおられ、また自治体の相談窓口に来た方も含め当法人は幅広く就労に結びつかせるための活動をおこなっています。

前田：なぜ愛知電線に就労支援の協力を要請されたのですか？

中島：あいち福祉振興会の特色として利用者に多彩な働き方を提案して、利用者にあった業務のマッチングを心掛けています。しかしながら周辺地域での業務提携ができる仕事内容がなかなか見つからず、名古屋市内の企業経営者の方に相談させていただいたところ、障がい者雇用への理解と興味をお持ちで、将来的に雇用も考えていただける企業があるとのこ

とで貴社をご紹介いただきました。また実際に前田社長にお話しを伺ったところ、障がい者雇用についてしっかりとした考えをお持ちで、委託いただく業務内容も利用者とマッチし、利用者と貴社そして当法人にとって大きな相乗効果があると感じましたので是非とも協力をお願いさせていただいた次第です。

前田：ありがとうございます。当社としても障がい者の方のために何か協力できることはないかと以前より考えておりました。今回のご縁をいただいたことで、企業としての社会貢献はもちろんのこと、日々一生懸命業務に取り組んでいただいている利用者の方々の努力が生産量の増加に繋がり、皆様に企業の戦力として就労頂けていることに大きな喜びを感じております。

前田：当社の業務に従事していただく人材はどのように選ばれているのですか？また、当社が就労支援の協力をさせていただき、当初と現在と比べ、何か変化があればお聞かせください。

中島：まずは、こちらでチャレンジを希望する利用者を募集し、その中からチームを編成します。貴社のケースは、その後の求人募集を行った他の企業様と比較すると、応募者が増加傾向にあります。要因としては他の業務では、なかなかうまくできなかったスタッフも、職場環境や貴社での就労を通じて自信がつき、勤怠の安定と仕事への意識が高くなっていることだと感じています。

その中で1人クローズアップさせていただきますと、A君は現在20代前半で、中学生の頃からひきこもり生活をしておりました。当時はほとんど私共との会話も無く、母親を通じて知り合ってからLINEによるコミュニケーションしか出来ておりませんでした。本人の社会への不安が強いためになかなか十分な活動ができませんでしたが、保健所と病院の協力もあり就労B型（非雇用型）のサービスを開始して週3日の業務活動をようやく保てていたところでした。その状況が1年半ぐらい経った頃に、母親の方から「勤務体制を変更してもらってほしい」とのご要望を頂き、これに応じ名古屋市が運営する子ども若者相談センターとの連携で就労A型（雇用型）の業務に変更を検討していたところでした。彼の希望は「1人で黙々と仕事ができること」でしたので、貴社の作業を案内したところ興味を持ってもらうことが出来、この業務の専属として雇用契約へ切り変えることができました。

初めは週5日は厳しいと本人が発言していたものの、あっという間に毎日取り組める様になっていきました。今では、苦手なコミュニケーションも慣れた人とは笑顔で話せるようになってきております。貴社のご協力がなければ、もっと時間がかかっていたかもしれません。

前田：なるほど、技術の習得だけではなく、仕事に対する意識やまわりの人とのコミュニケーション能力も向上していったのですね。こうした利用者の方の自立に少しでも貢献する

ことができ嬉しく思います。ありがとうございます。

中島：こちらこそありがとうございます。また、委託いただきました当初は当法人の事務所で作業を行っており貴社に納品させていただいておりましたが、昨年より貴社の工場の一画を無償でお借りすることができ、委託いただく数量も増え、利用者の更なる仕事に対する意識の向上に繋がっております。

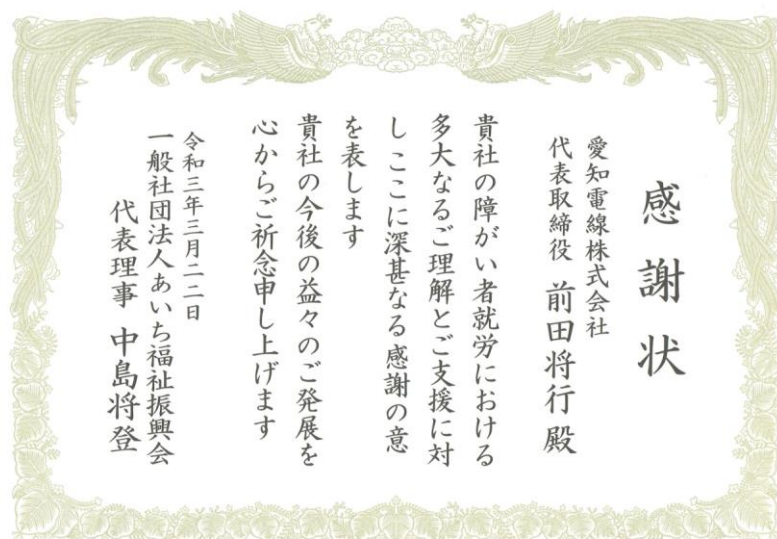
自事業所ではなく「外に出て働く」一步を踏み出せることには利用者にとって大きな意味があり、これを環境整備からご一緒に検討頂き、スペース確保含め全面的なご協力を頂いたことには本当に感謝しております。

前田：最後に貴法人が考えられている今後の展開をお聞かせください。

中島：あいち福祉振興会の貴社に関わるメンバーの中から貴社に就職することができ、そしてそのメンバーが作業担当者として生産量を増やし、作業時間を伸ばしていけることが目標です。この業務に関わることで、1人でも多くのスタッフが安定した生活を送ることができるように支援していきたいと考えています。

前田：当社としても、これからの多様性社会に向けて1人でも多くの障がい者の方が活躍できる場を提供できればと考えております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

本日はありがとうございました。



■2021年（令和3年）3月22日

障がい者の就労支援に寄与したとして、一般社団法人あいち福祉振興会様より感謝状を贈られる。